



1 はじめに

イコールネット仙台は、男女共同参画社会の実現に向けて、生活すべてをテーマに幅広い活動を展開しています。特に、防災・災害復興を重要なテーマととらえ、東日本大震災発生前から取り組んできました。2008年には、阪神淡路大震災からの教訓と宮城県沖地震の発生確率の高さを背景に「災害時における女性のニーズ調査」（対象：仙台市内の女性1,100人）を実施し、結果、災害を想定した際に抱える不安や心配が数多く寄せられ、それらを「女性の視点からみる防災・災害復興に関する提言」にまとめて、各自自治体や地域団体等で提言活動を行ってきました。

2 震災以降、被災女性に対する支援活動・調査活動に取り組む

震災発生後は、前述の調査結果をふまえ、避難所や仮設住宅において、被災女性に対する支援活動や調査活動に取り組み、その過程で、女性たちが抱える困難を数多く目の当たりにしました。当団体が行った「東日本大震災に伴う『震災と女性』に関する調査」（2011年9月）では、避難所における困難に加え、震災同居や家族介護、失業・退職等々、女性をめぐる現実が浮き彫りになりました。一方で、被災者でありながら、支援者としても活動したという声も多く、震災で抱

えた困難を繰り返さないためには、復興計画策定の議論の場に、女性たちの声を届けなければならないとの回答も85%に上りました。震災発生時の3月11日午後2時46分は、地域に男性が少ない時間帯であり、地域に残っていた女性たちが率先して地域を守る必要を実感した瞬間でもありました。調査結果では、女性防災リーダー等の人材育成を望む回答が、高い数値を示していました。

男女共同参画の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言（2012）

1. 意思決定の場における女性の参画の推進
2. 女性の視点を反映させた避難所運営
3. 多様なニーズに応じた支援
4. 労働分野における防災・災害復興対策
5. 災害時におけるDV防止のための取組の推進
6. 防災・災害復興に関する教育の推進

3 「女性のための防災リーダー養成講座」を開催

そこで、当団体では、2013年～2015年にわたって、女性防災リーダーの養成に取り組みました。これは、生活者の視点を持ち、地域をよく知る女性たちが男性とともに地域防災の担い手としてリーダーシップを発揮できるよう3年間で100名の人材を育てる目的でスタートさせました。受講生は、男女共同参画の視点で構成された5回の連続講座を終了後、



「女性のための防災リーダー養成講座」

「みんなでつくろう！避難所設計図」ワークショップ
(対象：小中学生)

必ず地域で防災の取組を実践するという長期的なプログラムです。講座内容も、「地域防災計画を知る」「震災で深刻化するDVや児童虐待の現状」「障害の特性と対応を知る」また、避難所内での様々な支援方法を学ぶ等、多岐にわたっています。最終的には、育った人材が必ず活動の場を得て、地域で活躍できるまで団体がサポートをするという流れです。仙台市に加え、宮城県内の石巻・塩釜・東松島等においても講座を開催し、100名を超える女性防災リーダーが誕生しました。講座終了後は、それぞれネットワークを組んで、情報交換や研修を重ねながら、地域の仲間とともに、防災活動を展開しています。地域の学校や児童館、町内会、大学等と連携しての防災講座の開催、小中学生を対象にした「みんなでつくろう！避難所設計図」、地域住民対象の「避難所のトイレ問題を考えるワークショップ」「災害食づくり講座」等々、様々な多様な取組をすすめています。そうした活動が認められ、地域の防災会議委員、避難所運営委員、また防災訓練の企画を任される等、防災にかかる意思決定の場に登用される機会も増えてきました。まさに、その姿は、防災・減災に女性の力が不可欠であることを示しています。

4 女性防災リーダーの「現在」を伝える

毎年3月、震災が発生した時期に、女性防災リーダーの1年間の活動を報告するシンポジウムを開催しています。活動に加えて、自分たちの可能性をアピールする場として、また、「やる気」を伝える機会として位置付けています。2018年3月には、仙台市内で20町内会を抱える連合町内会が取り組んだ市内初の「女性防災リーダー育成講座」の実践が紹介されました。男性たちが、女性の力が地域には不可欠と判断しての取組で、何より勇気づけられる動きです。今後は、災害に強い地域づくりのために、女性たちがリーダーシップを発揮できる環境と仕組ぶりに力を注いでいきたいと思っています。



「女性防災リーダー活動報告会」